



## ASEAN+3 高等教育質保証フォーラム概要

日 程：2012（平成24）年10月10日（水）～11日（木）  
主 催：マレーシア資格機構(MQA: Malaysian Qualifications Agency)  
開 催 地：SUNWAY PUTRA HOTEL（マレーシア・クアラルンプール）  
参 加 者：・ASEAN 諸国等 AQAN\*関係国（マレーシア、インドネシア、カンボジア、  
ラオス、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、ブルネイ、  
東ティモール）  
・その他アジア諸国（日本、中国（香港含む））※韓国からの参加者については不明  
・関係国・地域（パプアニューギニア、ニュージーランド、ドイツ、  
南アフリカ共和国等）  
上記の国・地域から、質保証機関・大学関係者約60名が参加  
※AQAN: ASEAN Quality Assurance Network（ASEAN 質保証ネットワーク）

### 【概 要】

本フォーラムは、「教育に関する ASEAN+3 行動計画 2010-2017」（原案は 2009 年 ASEAN+3 首脳会合で提出、2012 年 7 月 ASEAN+3 教育大臣会合で合意）に基づき開催された。具体的には、「ASEAN 大学ネットワーク(AUN: ASEAN University Network)を通じた大学間の連携の強化、ASEAN+3 各国の大学間の単位互換の奨励など、高等教育協力の促進」という戦略のもとに練られたアクションプラン、「質の保証システムの確保による教育水準の調和の可能性の探求」を実行するものである。

また、2011 年 10 月に行われた ASEAN 質保証ネットワーク(AQAN)年次会合において、2012 年の会合をマレーシア資格機構(MQA)が主催し、本フォーラムと共同で開催することを決定。したがって、会議の全行程としては、10 月 9 日に AQAN 実行委員会、10 日から 11 日にかけて ASEAN+3 高等教育質保証フォーラム、12 日に AQAN 年次会合が開催された。

本フォーラムでは、冒頭の MQA 会長の歓迎の挨拶、マレーシア高等教育大臣の開会の挨拶に続き、「**Revisiting the Harmonization of Regional Higher Education – Lessons Learned（域内における高等教育のハーモナイゼーション（調和）の再検討）**」と題して、ラトビア学長会議事務局兼ボローニャフォローアップグループ議長から、欧州におけるボローニャプロセスへの取組について基調講演が行われた。その後、高等教育における「外部質保証」・「内部質保証」をキーワードとした4つのテーマ（資格枠組み(QF)の原則の再検討、外部質保証機関(EQAA)の原則の再検討、外部質保証のプロセスの原則の再検討、高等教育機関における内部質保証システムの原則の再検討）を基に、2日間で、4つの全体セッションとそれに対応する4つのワークショップが実施された。また、ドイツ学術交流会(DAAD)と ASEAN 質保証ネットワーク(AQAN)の共同事業である ASEAN-QA プロジェクト（評価研修事業）についての紹介セッションも行われた。

### 【ワークショップでまとめられた ASEAN+3 高等教育質保証フォーラムにおける高等教育質保証の原則に関する提言等】

#### ◇ワークショップ1：「資格枠組み(QF: Qualification Framework)の原則」

各国の資格枠組み(NQF: National Qualification Framework)の策定状況は、国によって異なっているが、共通意見としては、国ごとに NQF があるべき。また、NQF が目指す「成果」を明確にする、わかりやすい文言にするなどの意見もあった。さらに、学生の流動性、資格等の通用性の向上を促進するためにも、各国の NQF は、ASEAN における共通基準に



対応したものでなくてはならないとの発言があった。

◇ワークショップ2：「外部質保証機関(EQAA: External Quality Assurance Agency)の原則」

原則の詳細については、下記のとおり（発表資料はなし）。

- EQAA は、一般社会の信用を得るために、法律に基づいた組織であること
- 説明責任を持つこと
- 政府や政治の関与を受けないこと
- EQAA の判断は、外的影響を受けないこと
- 「質」の基準は、専門家の意見を取り入れたり、海外の実例を生かしながら改善すること
- 基準は、ステークホルダーとの関係を考慮しながら、開発すること
- 評価基準等の改善のプロセスの検証を行うこと
- 報告書発行、ウェブサイトでの情報発信を行うこと
- 組織としての決断を行うときには、判断材料となる情報を精査すること
- キャパシティー・ビルディングを継続して行うこと
- 改善と革新の意識を持って、域内のクオリティ・フレームワーク策定を行うこと
- ステークホルダーと協力すること

◇ワークショップ3：「外部質保証(EQA: External Quality Assurance)のプロセスの原則」

ここでは、原則としてではなく、理論的枠組(Paradigm)として報告があった。政府、(労働)市場、大学にとってそれぞれが求める高等教育の成果は異なり、原則を策定するにあたっては、様々な側面から高等教育に求められていることを判断する必要があるとの発表があった。

◇ワークショップ4：「高等教育機関の内部質保証(IQA: Internal Quality Assurance)システムの原則」

教育の質の維持の責任は、高等教育機関にある旨強調し、AQAN タスクフォースによる、内部質保証システム原則にかかる検討状況の紹介があった。その後、内部質保証に関する原則として、下記の点について提案した。

- 外部質保証制度と内部質保証の関わりが明確になっていること
- 自己点検や自己評価などの仕組みがあること
- 様々なステークホルダーの関与があること
- 質保証の状況を管理する仕組みや組織があること
- 大学（機関）の自治において内部質保証を自ら進めること
- 説明責任を実証すること、 など

<参考>

**【2012年6月、AQAN タスクフォースが起草した「内部質保証に関する原則」案(概略)】**

1. 各機関に高等教育の質保証の責任がある
2. 教育の質保証は、各機関が社会に対して保証するもの
3. 質保証文化を確立すること
4. 質保証のシステムを学内で構築すること
5. 内部質保証のシステムにおけるトップマネジメントが必要
6. 質保証活動に関しては教職員と学生の関与が必要
7. 質保証に関するリソースを用意すること
8. 質保証システムについては、定期的にモニターする仕組みを整えること
9. 質保証に関するデータや情報について、一般市民がアクセスできるようにすること

以上